

二上谷内遺跡調査概報

— 平成16年度、谷内（1）地区急傾斜地崩壊対策事業に伴う調査 —

2007年3月

高岡市教育委員会

序

「二上谷内遺跡」は、高岡市街地の北側、二上谷内地にあります。この地区は二上山の南麓にあり、丘陵の末端部と開析谷に開まれた所であります。遺跡の所在する当地には、二上射水神社、大杉神社があります。現在でも築山神事が行われ、古からの二上山の信仰を今に伝えております。地元では古くから遺物が出土したことが伝えられています。また、二上丘陵には、多くの古墳群があります。当遺跡の周辺では谷内古墳群、鳥越古墳群があります。丘陵裾部から平野部においては、上二上東遺跡、上二上遺跡、山園町遺跡等があります。

これまで実施した数々の調査により、二上山周辺には、谷部や丘陵において様々な遺跡が存在することが確認されています。

この度報告いたしますのは、急傾斜地崩壊対策事業に伴い、平成16年度に実施した二上谷内遺跡での調査の成果です。また関連して、平成17年度に実施した山園町遺跡の調査の成果にも触れました。

最後になりましたが、発掘調査にご協力頂きました、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

高岡市教育委員会
教育長 村井 和

例　言

1. 本書は富山県高岡市において、平成16年度に二上谷内遺跡で実施した、谷内（1）地区急傾斜地崩壊対策事業に伴う試掘調査、および本調査の報告書である。また、平成17年度に山岡町遺跡で実施した、沙魚谷砂防改良事業に伴う試掘調査も報告した。
2. 二上谷内遺跡の試掘調査・本調査は高岡市教育委員会・富山県高岡土木センター・株式会社アーキジオ（津島春秋代表取締役社長、旧中部日本鉱業研究所）の三者間で協定書を取り交わして現地調査を実施した。
3. 二上谷内遺跡の調査作業は、高岡土木センターからアーキジオへ発注され、高岡市教育委員会監理のもと、アーキジオが実施した。
4. 山岡町遺跡の試掘調査は、高岡土木センターの委託を高岡市教育委員会が受け、アーキジオが作業実務を行った。
5. 調査関係者は以下の通りである。
〔高岡市教育委員会文化財課〕
文化財課長：大石茂（平成16年度）
文化財課長：鶴島千恵子（平成17・18年度）
〔埋蔵文化財担当〕
主幹：本林弘吉（平成18年度）
副主幹：本林弘吉（平成16・17年度）
副主幹：山口辰一（平成17・18年度）
主任：根津明義（平成16年度、二上谷内遺跡調査担当）
主任：荒井隆（平成16～18年度、山岡町遺跡試掘調査担当）
〔株式会社アーキジオ〕
二上谷内遺跡試掘調査担当：田中昌樹、岡田義樹
二上谷内遺跡本調査担当：中井英策、田所人志
山岡町遺跡試掘調査担当：中井英策、山所人志
6. 報告書作成作業は平成18年度に実施した。
7. 報告内容は、アーキジオの各担当者による報文を基にして山口・荒井が調整をして作成した。

目 次

序
例 言
目 次

I 序 説	1
1. 遺跡概観	1
2. 遺跡の分布状態	3
3. 調査経過	4
4. 調査概要	5
5. 周辺の調査	6
II 試掘調査	7
1. 試掘坑の設定と基本層序	7
2. 各試掘坑の状況	9
3. 遺物	11
4. 小結	12
III 本調査	13
1. 調査の概況	13
2. 遺構	15
3. 遺物	17
4. 小結	18
IV 山園町遺跡の試掘調査	19
1. 調査の概況	19
2. 調査方法	21
3. 各試掘坑の状況	21
4. 防空壕	27
5. 遺物	27
6. 小結	28
V 総 括	29

図 版 目 次

- | | |
|------------------|-------------------|
| 図版01 遺跡写真 二上谷内遺跡 | 図版06 遺跡写真 山岡町遺跡 |
| 図版02 遺構写真 二上谷内遺跡 | 図版07 遺構写真 山岡町遺跡 |
| 図版03 遺構写真 二上谷内遺跡 | 図版08 遺構写真 矢山上野古墳群 |
| 図版04 遺構写真 二上谷内遺跡 | 図版09 遺物写真 各遺跡 |
| 図版05 遺構写真 二上谷内遺跡 | 図版10 遺物写真 各遺跡 |

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図（1／5万）	1
第2図 遺跡地図（1／2万5千）	2
第3図 急傾斜地地区等位置図（1／5万）	4
第4図 越中国府閏連遺跡調査地区位置図（1／1万）	6
第5図 矢山上野古墳群調査地区位置図（1／1万）	6
第6図 矢山上野古墳群遺物実測図（1／3）	6
第7図 二上谷内遺跡試掘調査地区位置図（1／5,000）	7
第8図 二上谷内遺跡試掘測量試坑位置図（1／600）	8
第9図 二上谷内遺跡試掘調査遺物実測図（1／3）	11
第10図 二上谷内遺跡本調査地区位置図（1／5,000）	13
第11図 二上谷内遺跡本調査地区地形図（1／500）	14
第12図 二上谷内遺跡本調査遺構概念図（1／200）	15
第13図 二上谷内遺跡本調査遺構実測図（1／80）	16
第14図 二上谷内遺跡本調査遺物実測図（1／3）	17
第15図 山岡町遺跡調査地区位置図（1／5,000）	19
第16図 山岡町遺跡試掘坑配置図（1／600）	20
第17図 山岡町遺跡平坦地現況図（1／400）	22
第18図 山岡町遺跡試掘坑03実測図（1／100）	22
第19図 山岡町遺跡防空壕確認状態実測図（1／100）	24
第20図 山岡町遺跡防空壕断面図等実測図（1／100）	25
第21図 山岡町遺跡防空壕断面図等実測図（1／100）	26
第22図 山岡町遺跡遺物実測図（1／3、1／4）	28

I 序 説

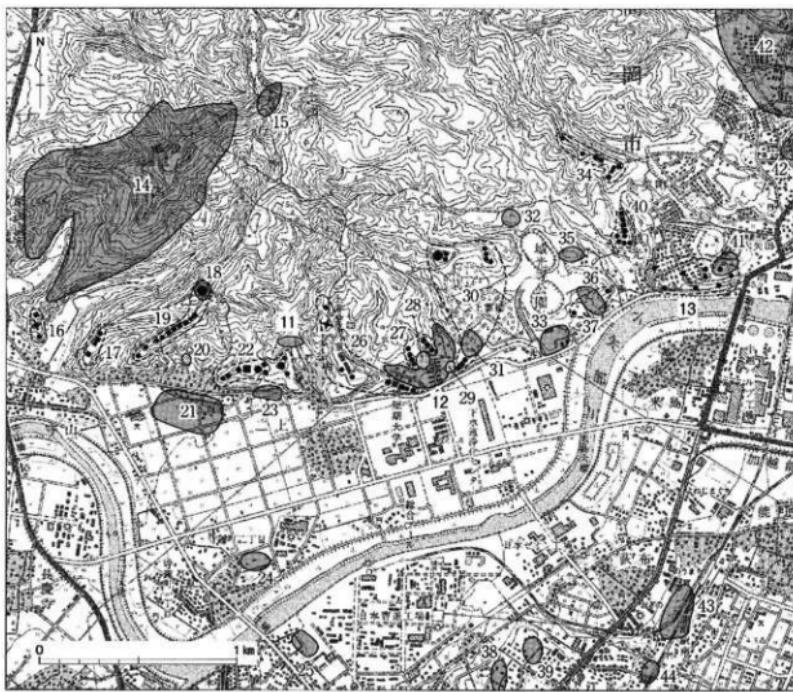
1. 遺跡概観

高岡市の北東側、西山丘陵の東側に二上丘陵がある。平野部は、庄川が氾濫を繰り返しながら扇状地を形成した。丘陵側は小矢部川が蛇行しながら流れている。二上山は西側の西山丘陵と海老坂断層により分かれ、二上山の山塊を成している。二上山は数々の峰からなり、主峰（東峰、奥の御前、274m）、西峰（城山、259m）がある。北側には大師ヶ岳（254m）、小竹山（摩頂山、251m）、東側には鉢伏山（211m）がある。北東側は富山湾に臨み、東側には伏木台地があり、小矢部川、庄川の河口がある。西側は海老坂峠があり、国道160号が水見方向へ走る。南側は富山平野が広がる。

二上山は古くから神として、信仰の対象とされてきた。万葉集には大伴家持が詠んだ「二上山の賦一首」がある。二上神は、「六国史」によると宝亀11（780）年に從五位下に序せられ、貞觀元（859）年に正三位に昇る。二上谷内には二上神社、二上山養老寺があった。具体的な経緯は不明であるが、残された史料等か



第1図 遺跡位置図 (1 / 5万)



第2図 遺跡地図 (1/2万5千)

- 11. 二上谷内遺跡、12. 山園町遺跡、13. 矢田上野古墳群、14. 守山城跡、15. 二上山頂遺跡
- 16. 東海老坂ダイラ古墳群、17. 東海老坂ムカイ古墳群、18. 二上経塚、19. 二上古墳群、20. 二上横穴墓群
- 21. 上二上遺跡、22. 谷内古墳群、23. 上二上東遺跡、24. 守護町遺跡、25. 向野遺跡、26. 鳥越古墳群
- 27. 院内古墳群、28. 山園町横穴墓群、29. 院内東横穴墓、30. 城光寺古墳群、31. 城光寺平子遺跡
- 32. 城光寺遺跡、33. 城光寺表上野遺跡、34. 東上野古墳群、35. 藤巻神社遺跡、36. 城光寺上野遺跡
- 37. 寺山古墳群、38. 江尻C遺跡、39. 江尻A遺跡、40. 東上野II古墳群、41. 高美町遺跡
- 42. 越中国府関連遺跡、43. 鶯北新遺跡、44. 旭ヶ丘遺跡

ら平安時代後期には、神仏習合により成立したと推定される。現在も築山神事の祭礼が行われ、二上山信仰を今に伝えている。これらの二上山の祭礼は、古代からの二上神の信仰に由来するものと考えられる。

二上山の城山には、守山城が築かれた。築城の時期は不明であるが、史料により南北朝時代には遡れる。戦国時代には神保氏の居城となる。その後、佐々成政の支配を経て、天正13(1585)年に前田利長が入城している。慶長2(1597)年に前田利長が守山城に移った後に廃城となった。

昭和62年度には、この地域を対象に、当市教育委員会により分布調査を実施した。当地域の遺跡の存在が確認され、遺跡範囲と内容が総括された。これにより、二上谷内遺跡は、二上山の南麓、射水神社の所在する谷部奥一帯に位置し、出土遺物により奈良平安時代～中世にかけての遺跡であることが確認された。

2. 遺跡の分布状態

谷内周辺の遺跡

当遺跡周辺の遺跡として、丘陵裾部に上二上東遺跡がある。また、上二上集落南東側平野部には上二上遺跡があり、奈良時代～中世にかけての遺跡である。

東側の山園町、院内集落のある谷部には山園町遺跡があり、周辺の斜面地を含む谷部全域に亘る。平成3年度には、院内社参道整備工事中に中世地下式壙が発見され、調査を実施した。

平成7年度の院内大谷の斜面掩埋工事中に、新たに院内東横穴墓が発見され、調査を実施した。

平成11年度～14年度にかけて急傾斜地崩壊対策工事に伴い発掘調査を実施した。横穴や大規模な平坦面が築造されており、中世を主体とする遺物が多数出土した。当遺跡の南西側平野部には、守護町遺跡がある。

谷内の谷をめぐる遺跡

二上山の南側山麓には、丘陵が枝葉上に延び小規模な開析谷がいくつも入り込む。谷内の谷部を囲む丘陵上には古墳群がある。当遺跡と上二上集落との間の台地上には、谷内A・B古墳群がある。西側は谷内B古墳群であり、円墳2基、方墳6基からなる。東側は谷内A古墳群であり、円墳3基からなる。

谷内集落の東側にある鳥越台地上には、鳥越古墳群A～C支群がある。A支群は方墳2基、円墳1基からなる。南にある第3号墳は四隅突出墳の可能性がある。B支群は「富山県立二上青少年の家（二上まなび交流館）」がある台地上に位置する。かつては多くの古墳が存在したが、現在は円墳2基、方墳2基が残る。C支群は東側へ延びる丘陵の先端部にある。方墳2基、前方後方墳1基、円墳1基があったが、この内、円墳は工事により消滅した。

二上山麓の古墳群

二上山麓には数多くの古墳が確認されている。これは、昭和55年から西井龍儀氏により西山丘陵における古墳の踏査、研究が行われたことによる。西井氏は、「昭和57年度高岡市埋蔵文化財調査概報」の「二上周辺の古墳」において、当地域における古墳について発表している。

当遺跡の東側、矢田上野台地上には、矢田上野古墳群があり、11基以上の古墳が存在した。宅地化によりほぼすべての古墳が消滅した。城光寺集落の北側、城光寺谷の丘陵上に東上野I古墳群がある。円墳2基、方墳3基のほか、1号墳は古墳時代初期の前方後円墳で、測量調査が実施された。城光寺谷の北東側、丘陵尾根上には東上野II古墳群があり、円墳5基、方墳4基からなる。

高岡市営城光寺球場・陸上競技場のある台地は寺山台地と呼ばれ、5基以上の古墳があったが消滅した。二上蓋園背後の丘陵上に、城光寺古墳群A・B支群があり、南西側の丘陵先端部にC支群がある。西側のA支群は円墳4基があったが、工事により1基が消滅した。東側のB支群は円墳4基である。谷内集落の東側、鳥越台地上には、鳥越古墳群A～C支群が位置する。

二上山南西側の海老坂地区には、東海老坂ムカイ古墳群があり、前方後円墳1基、円墳1基からなる。上二上集落の北側尾根上に二上古墳群があり、前方後方墳1基、円墳4期、方墳4基からなる。古墳群の最高所には二上經塚がある。谷を挟んで西側の丘陵上に東海老坂ダイラ古墳群があり、円墳1基、方墳1基からなる。2号墳は四隅突出墳の可能性がある。上二上集落と谷内集落間の台地上に、谷内A・B古墳群がある。

二上横穴墓群

上二上集落に所在する金光院の背後に、4基の横穴墓がある。泥岩質の岩盤が露頭する斜面の、標高40～50mの斜面に築造されている。

3. 調査経過

調査にいたる経緯

二上山南麓にある二上谷内地内及び上二上集落周辺の丘陵斜面は、「谷内（1）急傾斜地」として指定されている。平成16年に、この地を対象とする急傾斜地崩落対策工事に伴い、富山県高岡土木センターから調査依頼があった。その後協議により、高岡市教育委員会と富山県高岡土木センターと株式会社アーキジオ（旧株式会社中部日本鉱業研究所）が三者協定を結び、調査実施に移された。平成16年8月～10月にかけて、試掘調査を実施した。その結果、調査地区の北西側において遺構、遺物が確認され、平成16年12月に本調査を実施した。



第3図 急傾斜地地区等位置図（1／5万）

4. 調査概要

調査地区の設定

二上谷内遺跡は、二上山の南麓の二上谷内地地区に位置する。周囲には丘陵先端部が延び、これに囲まれた谷部にある。東側丘陵上には鳥越古墳群A・B支群がある。西側には谷内古墳B支群があり、円墳2基、方墳6基がある。東側には、谷内A古墳群があり、円墳3基からなる。南東側には、上二上遺跡、上二上東遺跡があり、奈良時代～中世にかけての遺跡とされる。

当遺跡は、分布調査以外に本格的な調査がなされておらず、詳細は不明である。周囲に古墳時代から中世の遺跡が所在し、二上射水神社の隣接地にあたることから、遺構・遺物の存在する可能性は高いと推定された。富山県高岡土木センターと高岡市教育委員会の間で協議を行い、試掘調査の結果により、本調査に向けて調整を行うこととなった。

平成16年8月から工事対象地において、試掘坑（トレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。その結果、調査地区的北東部において遺構・遺物を確認し、本調査を実施することとなった。

今回の調査における現地調査期間、調査対象面積、調査面積は以下の通りである。

試掘調査：平成16年8月16日～同年10月7日。調査対象面積1,200m²、調査面積103m²。

本調査：平成16年12月7日～同年12月27日。調査面積75m²。

現地調査

試掘調査に先立ち調査地区的樹木伐採がなされた。トレンチは表面観察により、地形の変化のある場所を中心に、任意に28箇所設定した。調査地区は斜面地を含むため、一部重機を使用したが、大半は人力による掘削を行った。斜面の崩落を防ぐため樹木の切株は調査の支障がない範囲で最小限残した。また、安全面の確保のため足場を設定した。

本調査は、試掘調査の北西側で確認された横穴状遺構を中心とする範囲を対象に実施した。今回の調査により祠状遺構として再確認した。

グリッド

調査地区的グリッドは、世界測地系の平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00''、東経137° 10' 00''）に合わせた。この公共座標を基にして10m×10m方眼で設定した。調査地区や遺構図には南北方向、東西方向に座標の数値を表記した。

検出遺構

検出した遺構は以下の通りである。

祠状遺構1基

道路状遺構1条

小穴3基

出土遺物

出土した遺物は、以下の通りである。

土器・陶磁器類：土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、青磁、越中瀬戸

5. 周辺の調査

越中国府間連遺跡の調査

〔平成16年度急傾斜地にかかる調査〕

越中国府間連遺跡の隣接地で、矢田新町（3）地区急傾斜地崩壊対策工事に伴い、富山県高岡土木センターと高岡市教育委員会、株式会社アーキジオの三者間で協定書を取り交わし、試掘調査を実施した。現地調査は平成16年8月に実施した。

山園町遺跡の調査

〔平成17年度急傾斜地調査にかかる調査〕

山園町及び、二上院内の所在する谷部一帯は、「谷内（2）地区急傾斜地」に指定されている。平成16年に、山園町遺跡沙魚谷砂防改良工事に伴い、富山県高岡土木センターより試掘調査の依頼があった。その後の協議により、樹木の伐採や調査準備等が整い、同年11月から12月に試掘調査を実施した。平成18年3月に、試掘調査で検出した横穴について、測量調査を実施した。

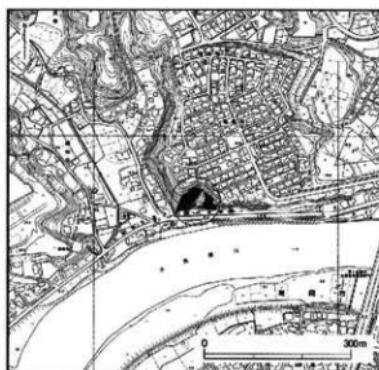
矢田上野古墳群の調査

〔平成18年度の急傾斜地調査にかかる調査〕

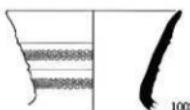
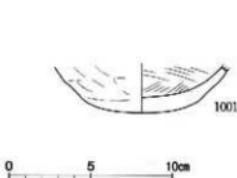
矢田上野台地の南西側は、「城光寺（2）地区急傾斜地」に指定されている。平成16年に高岡土木センターより、急傾斜地崩壊対策工事の依頼があった。平成18年度に、用地買収が完了し、樹木の伐採や調査準備が整い、平成18年6月に試掘調査を実施した。比較的緩やかな斜面のある北東側に試掘坑を5箇所設定した。表土の下は黄褐色砂疊層が現れる。構造は検出できなかった。出土遺物は古墳時代の土師器杯、須恵器壺がある。



第4図 越中国府間連遺跡調査地区位置図（1／1万）



第5図 矢田上野古墳群調査地区位置図（1／1万）



第6図 矢田上野古墳群
遺物実測図（1／3）
土師器：1001
須恵器：1002

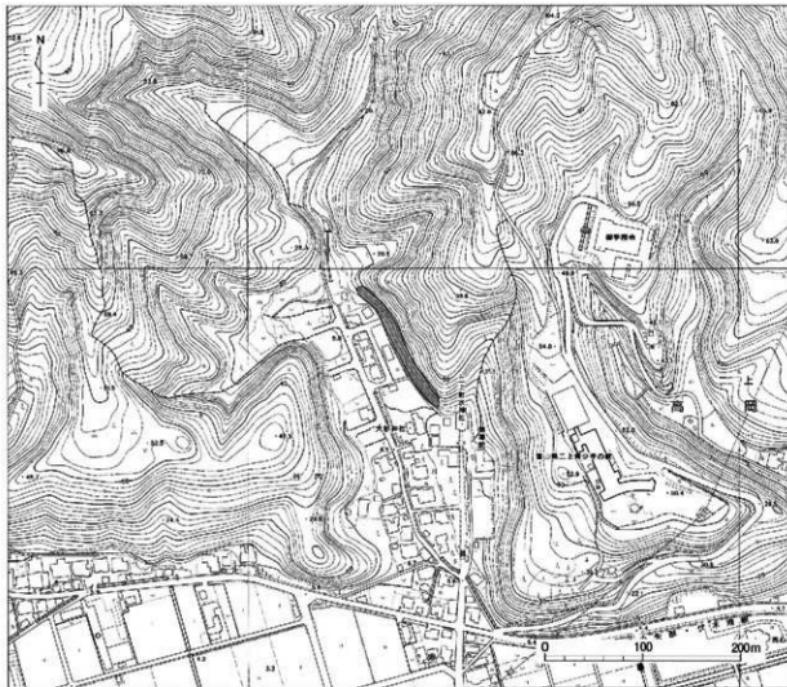
II 試掘調査

1. 試掘坑の設定と基本層序

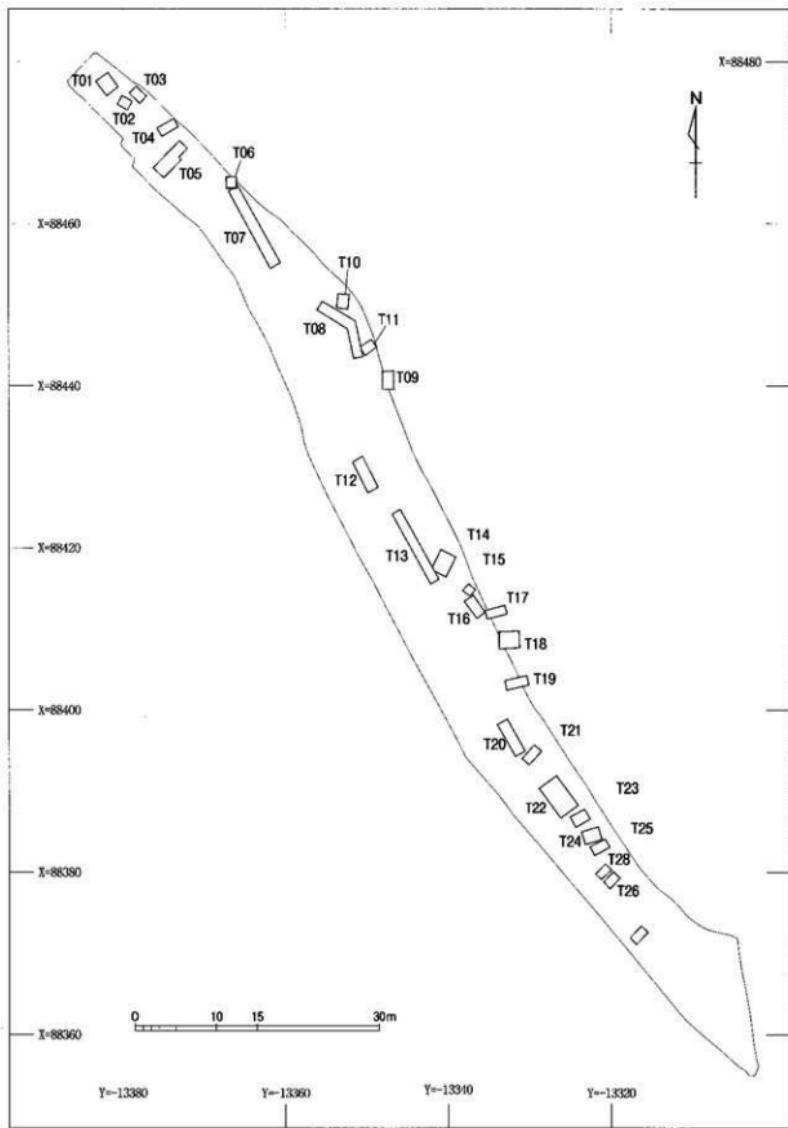
当試掘調査地は平坦面及び、急傾斜地であることから、横穴墓や須恵器等の窯の所在が想定される地形である。このことから、試掘坑の設定位置は、平坦面と傾斜地の境界部分や地形が凹む部分を中心に、幅0.8m~4.3m、長さ1m~10mの試掘坑を合計28本設定した。それを小型重機及び人力にて掘削を行い、遺構と遺物の確認、土層観察を行った。掘削深度は0.1m~1.4mである。

土層観察の結果、基本層序は、

- I層：にぶい黄褐色+黒色の砂質シルト（表土）
II層：灰白色+明褐色+黄褐色の砂質シルト（地山）
である。またI層=表土には、崩落した地山が混じる。



第7図 二上谷内道路試掘調査地区位置図 (1/5,000)



第8図 二上谷内遺跡試掘調査試掘坑位置図 (1/600)

2. 各試掘坑の状況

試掘坑01（T01）

当試掘調査範囲の北西隅に位置する試掘坑である。遺物は珠洲2点、土師器1点が確認された。人為的に整形されたような平坦面が確認されたが、明確な遺構かどうかは不明である。

試掘坑02（T02）

当試掘調査範囲の北西部、T01の南東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑03（T03）

当試掘調査範囲の北西部、T02の北東側に位置する試掘坑である。「横穴（祠状遺構）」1基が検出され、土師器（皿2点、破片1点）が出土した。「横穴」は、開口部径50cm、奥行きは既存で1.2mを計る。地山を直接掘り込んでおり、南北を向く開口部の最も手前から土師器皿が並んだ状態で2点、正位置で出土した。図示した遺物は、第9図-2001・2002である。「横穴」とした遺構は、古代の横穴墓ではない。この遺構は、後に行った本調査により「祠状遺構」としたものである。

試掘坑04（T04）

当試掘調査範囲の北西部、T03の北東側に位置する試掘坑である。試掘坑外へ拡がるため詳細は不明だが、人為的に整形された隅丸方形状の遺構1基、また遺物は珠洲5点が確認された。

試掘坑05（T05）

当試掘調査範囲の北西部、T04の北東側に位置する試掘坑である。溝1条、珠洲3点、近現代陶磁器類6点が確認された。

試掘坑06（T06）

当試掘調査範囲の北西部、T05の東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑07（T07）

当試掘調査範囲の北西部、T06の南東側に位置する試掘坑である。遺構は人為的に整形されたと思われる、段切り状の遺構が確認された。遺物は最も多く出土しており、珠洲38点、瀬戸美濃1点が確認された。図示した遺物は、第9図-2007である。

試掘坑08（T08）

当試掘調査範囲の北西部、T07の南東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲8点、青磁1点、近現代陶磁器類1点が確認された。図示した遺物は、第9図-2008である。

試掘坑09（T09）

当試掘調査範囲の北部分、T08の南東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲2点が確認された。図示した遺物は、第9図-2006である。

試掘坑10（T10）

当試掘調査範囲の北部分、T09の北西側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑11（T11）

当試掘調査範囲の北部分、T10の南東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑12（T12）

当試掘調査範囲の中心部分、T11の南側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲3点が確認された。

試掘坑13（T13）

当試掘調査範囲の中心部分、T12の南東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲19点が確認された。図示した遺物は、第9図-2004である。

試掘坑14（T14）

当試掘調査範囲の中心部分、T13の東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲8点、瀬戸美濃1点が確認された。

試掘坑15（T15）

当試掘調査範囲の南東部分、T14の南東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑16（T16）

当試掘調査範囲の南東部分、T15の南側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲1点が確認された。

試掘坑17（T17）

当試掘調査範囲の南東部分、T16の東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑18（T18）

当試掘調査範囲の南東部分、T17の南側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑19（T19）

当試掘調査範囲の南東部分、T18の南側に位置する試掘坑である。伐採当初から、開口部が確認でき、横穴墓の可能性があった。しかし調査の結果、壁面に残されていた工具痕が明瞭すぎることや、遺物が出土しなかったこと、さらには第二次世界大戦中やその後に貯蔵庫として活用されていたという地権者の証言から、最終的には横穴墓ではないと判断した。

試掘坑20（T20）

当試掘調査範囲の南東部分、T19の南側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑21（T21）

当試掘調査範囲の南東部分、T20の南東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑22（T22）

当試掘調査範囲の南東部分、T21の南側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑23（T23）

当試掘調査範囲の南東部分、T22の南東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑24（T24）

当試掘調査範囲の南東部分、T23の南東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲2点、青磁1点、近世陶磁器類1点が確認された。図示した遺物は、第9図-2003・2005である。

試掘坑25（T25）

当試掘調査範囲の南東部分、T24の南東側に位置する試掘坑である。遺構、遺物は確認されなかった。

試掘坑26（T26）

当試掘調査範囲の南東部分、T25の南東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は珠洲2点が確認された。

試掘坑27（T27）

当試掘調査範囲の南東部分、T26の南東側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は

珠洲 1 点が確認された。

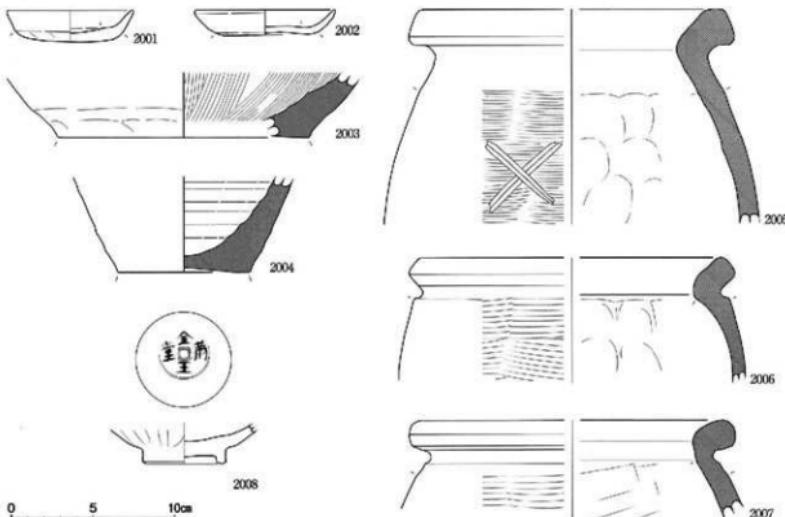
試掘坑28（T28）

当試掘調査範囲の南東部分、T25の南側に位置する試掘坑である。遺構は確認されなかったが、遺物は近現代と思われる陶磁器片 2 点が確認された。

3. 遺物

今回出土した遺物は、土師器（皿）、珠洲（擂鉢・壺・壺）、瀬戸美濃、青磁（碗）である。土師器皿 2 点のみがほぼ完形で出土した以外は、すべて破片である。時期は、土師器皿や珠洲壺等から、おおむね13世紀代～14世紀代と思われる。

2001・2002は土師器皿である。2001は口径7.6cm、器高2.0cmである。2002は口径8.6cm、器高1.55cmである。どちらも非クロコ形で若干の歪みが生じているが、ほぼ完形である。2003～2006は珠洲である。2003は擂鉢の底部である。1単位8条の鋸目が底部から口縁に向かって放射状に広がる。2004は壺の底部である。2005～2007は中型壺の口縁部から体部にかけてである。2005の外面にはヘラ書きの記号文（「×」）が施されている。2006には、口縁部の一部に叩きが施される。2007は外面には粘土紐の接合が見える。2008は青磁碗である。外面には蓮弁文が施される。内面見込み部分には「金玉滿堂」の刻印文があることから、龍泉窯系の青磁である。また文字の配列が、錢型文であることが珍しい。



第9図 二上谷内遺跡試掘調査遺物実測図（1／3）

土師器：2001・2002、珠洲：2003～2007、青磁：2008

4. 小結

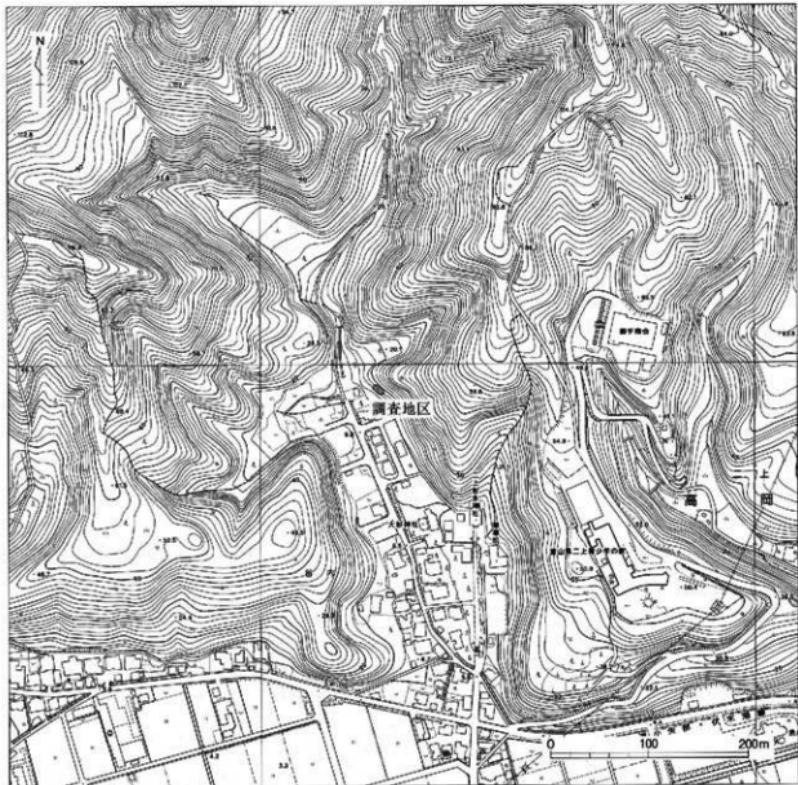
今回試掘調査を行った谷内（1）地区急傾斜地では、28本の試掘坑を設定し調査を行った。当地は二上丘陵上に位置し、周辺には「谷内古墳群」「上二上東遺跡」「谷内遺跡」「鳥越古墳群」「院内東横穴墓」等が所在する。前述の通り、当試掘調査地の地形が急傾斜地であることや、周辺から古墳群や横穴墓の所在が確認されていることから、今回の調査地からもそれらに類する遺構の立地が考えられた。しかし、今回の調査範囲では、それらの遺構は検出されず、また当該期の遺物も全く出土しなかった。代わりに、試掘坑03を中心とした約75mから、土師器皿2枚を伴った「横穴」1基と溝等を検出した。遺物はその他に珠洲や青磁の破片等も出土しており、時期はおおむね、13世紀～14世紀代を中心とするものである。

試掘坑03で検出した「横穴」は、今回の試掘調査では内部の調査を行ってはいないが、土師器皿の出土状況から、これらの土器が何らかの供獻的な意味合いを込めて開口部に置かれていたと思われる。これについては、本調査の結果、祠状遺構としたものである。

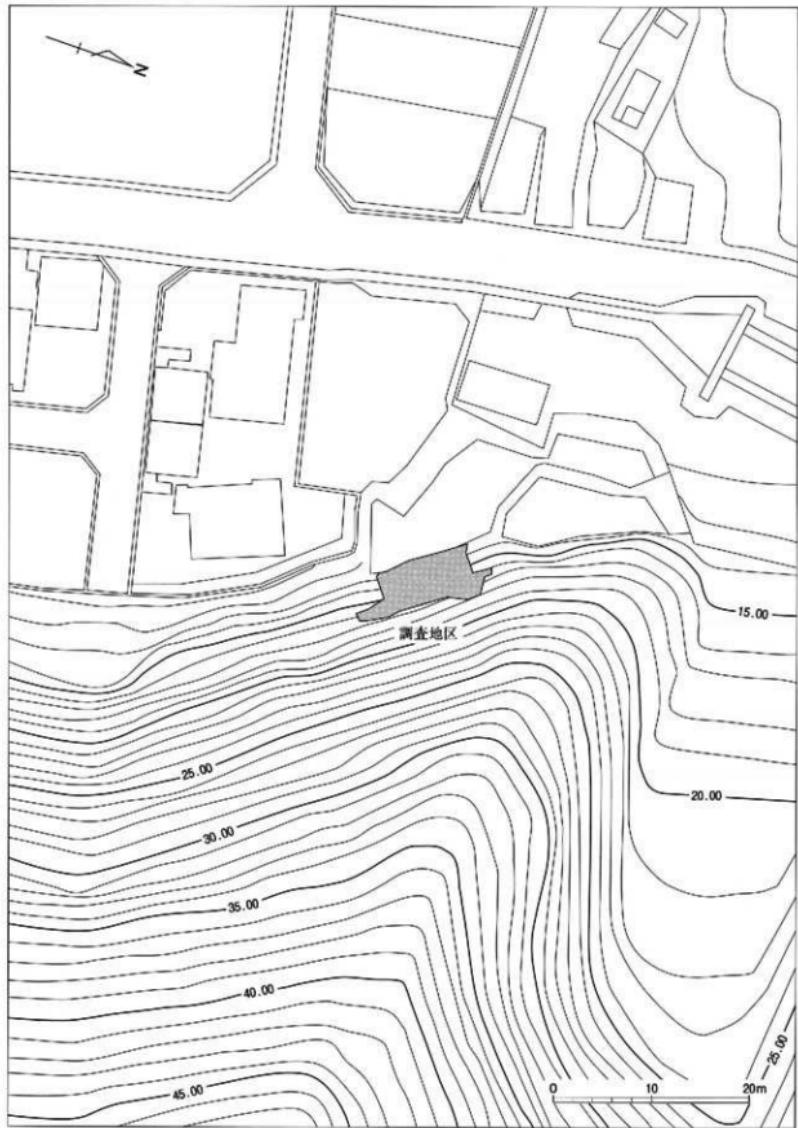
III 本調査

1. 調査の概況

試掘調査の結果により、試掘坑03の付近75m²の範囲について本調査（本発掘調査）を実施した。富山県高岡土木センターと高岡市教育委員会、株式会社アーキジオ（旧中部日本歴史研究所）との間で再び三者協定を取り結び、平成16年12月7日より開始した。この調査により、試掘調査において「横穴」としたものには「祠状遺構」とした。また関連するものとして「水溜遺構」が検出されたほか、道路状遺構も確認された。



第10図 二上谷内遺跡本調査地区位置図 (1/5,000)

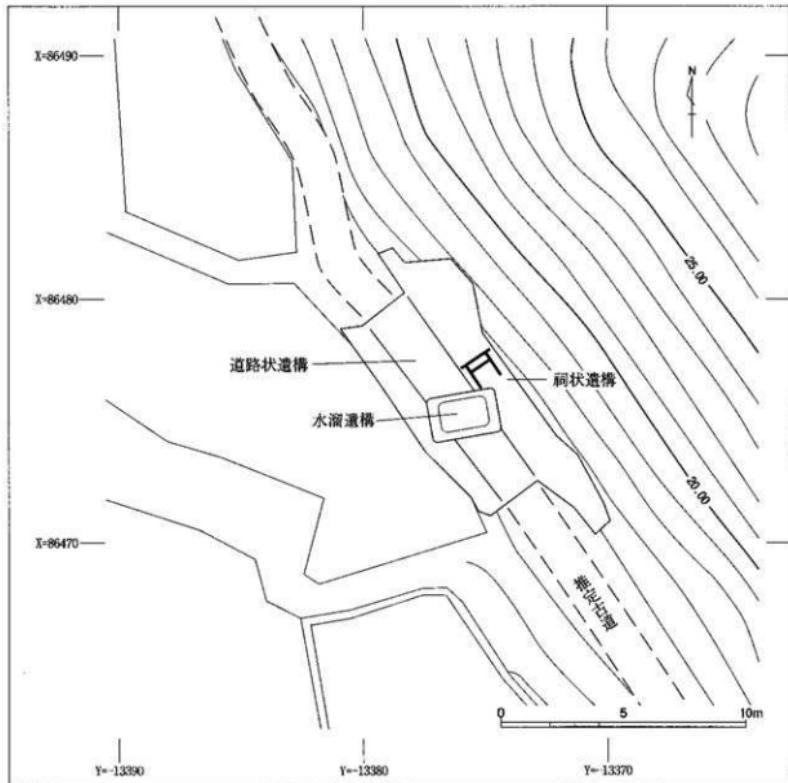


第11図 二上谷内遺跡本調査地区地形図（1／500）

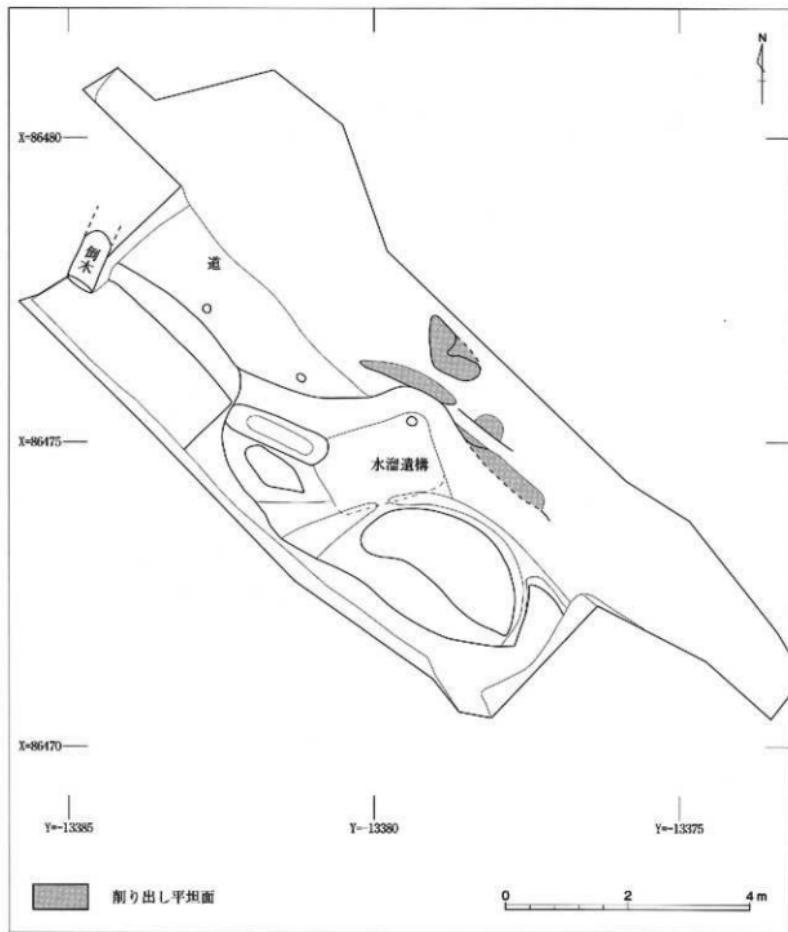
2. 遺構

試掘調査時に土師器 2 点が出土した祠状遺構からは絶え間なく水（谷熊泉）が流れ出している。この直下から水溜遺構と思われる方形の地山（岩盤）の削り込みを検出した。水溜遺構内には砂質土が堆積していた。祠状遺構は南向きで、水溜遺構とは主軸線を同一方向とする。

調査区の奥から中央（水溜遺構）付近にかけて岩盤の斜面を削り整形された道路状遺構（幅約 1.0~1.5 m）を検出した。また、約 2 m 間隔で幅約 15 cm、深さ約 10 cm のビットが 3 箇所、並んで検出された。道路状遺構 2 箇所、水溜遺構の上方で 1 箇所である。壁面の沿った柱穴とも考えられる。



第12図 二上谷内遺跡本調査遺構概念図 (1/200)

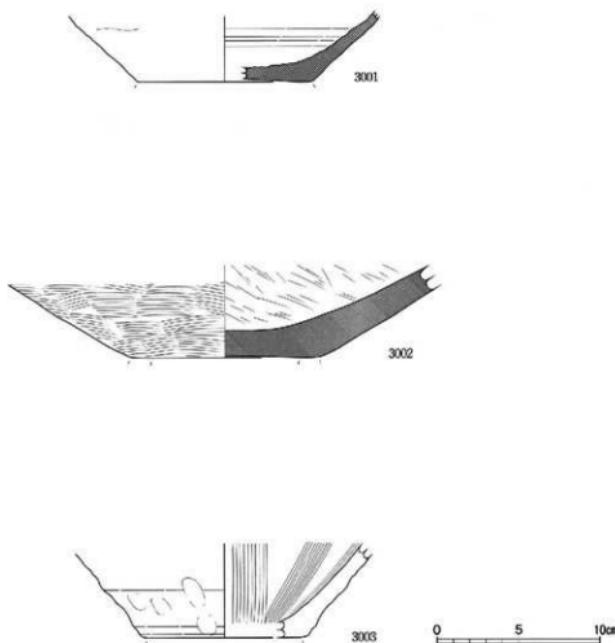


第13図 二上谷内遺跡本調査遺構実測図 (1 / 80)

3. 遺物

前回、試掘で調査した試掘坑03周辺の壁の立ち上がり箇所から珠洲を中心とした土器類6点が出土した。破片のみ単体で出土している。出土状態から土砂等の流入に伴ったものと考えられる。

図示遺物は3点で、3001は珠洲の擂鉢の底部である。3002は珠洲の壺の底部である。3003は越中瀬戸の擂鉢の底部である。鉄軸が施釉されている。1単位10条の擂目が底部から口縁部に向かって放射状に広がっている。擂目は摩耗している。



第14図 二上谷内遺跡本調査遺物実測図（1／3）
珠洲：3001・3002、越中瀬戸：3003

4. 小結

祠状遺構はここより流れ出る水を意識していることが、直下の水溜遺構より伺える。この水溜遺構は道の方向とは関連を持たず、南面する祠状遺構と軸線方向を同一にするのが興味深い。

祠状遺構からは水が流出している。「谷壠泉」である。谷川のそばや山腹で露出する泉で、高岡市内では伏木の気多神社の下でも見られる。

道路状遺構として、掘削前から確認していた平坦面は岩盤の削り込みによって作られたものであることがわかった。また、道平坦面及び水溜遺構付近には何らかの施設に伴うと思われるピットを3個検出した。調査地区の中央から東にかけての平坦面は肩の部分がやや崩れているために不鮮明である。また、壁際には水溜遺構につながる溝が掘り込まれていた。

祠状遺構と道路状遺構の時間的な接点については、現地形を整形した古道（道路状遺構）の開削後に、祠状遺構と水溜遺構が設けられたと推測して間違いないであろう。上記の歴史的環境にもある通り、二上神社に水の神が祀られているのも興味深い。

出土遺物は珠洲を中心とした6点が出土し、越中瀬戸以外は、時代的にはおむね13～14世紀代と考えられる。いずれも遺構に伴うものではなく、周辺からの流入遺物である。

今後、道路状遺構の開削時期を特定できる遺構・遺物の出土に期待したい。

IV 山園町遺跡の試掘調査

1. 調査の概況

山園町遺跡は、二上山の南麓、丘陵の谷部に位置する。二上山の山塊から枝葉状に延びる丘陵の南側、3条の開析谷からなる袋状の谷である。この袋状の谷は、東から、城光寺古墳群C支群・院内東横穴墓・院内古墳群A支群・院内古墳群B支群・鳥越古墳群C支群等がある尾根に囲まれている。今回の調査地区は、この3条の中央の谷で、西側に院内古墳群B支群（円墳4基）、東側に院内古墳群A支群（方墳3基）が位置する2筋の尾根に挟まれた谷である。この谷は奥行きが約170mを計る。出口の幅は約50mである。形状は、大きく分けて、民家の隣接する1段目、そこから1m以上の段で上がる2段目、さらに両側の斜面が迫る3段目の3段に分けることができる。

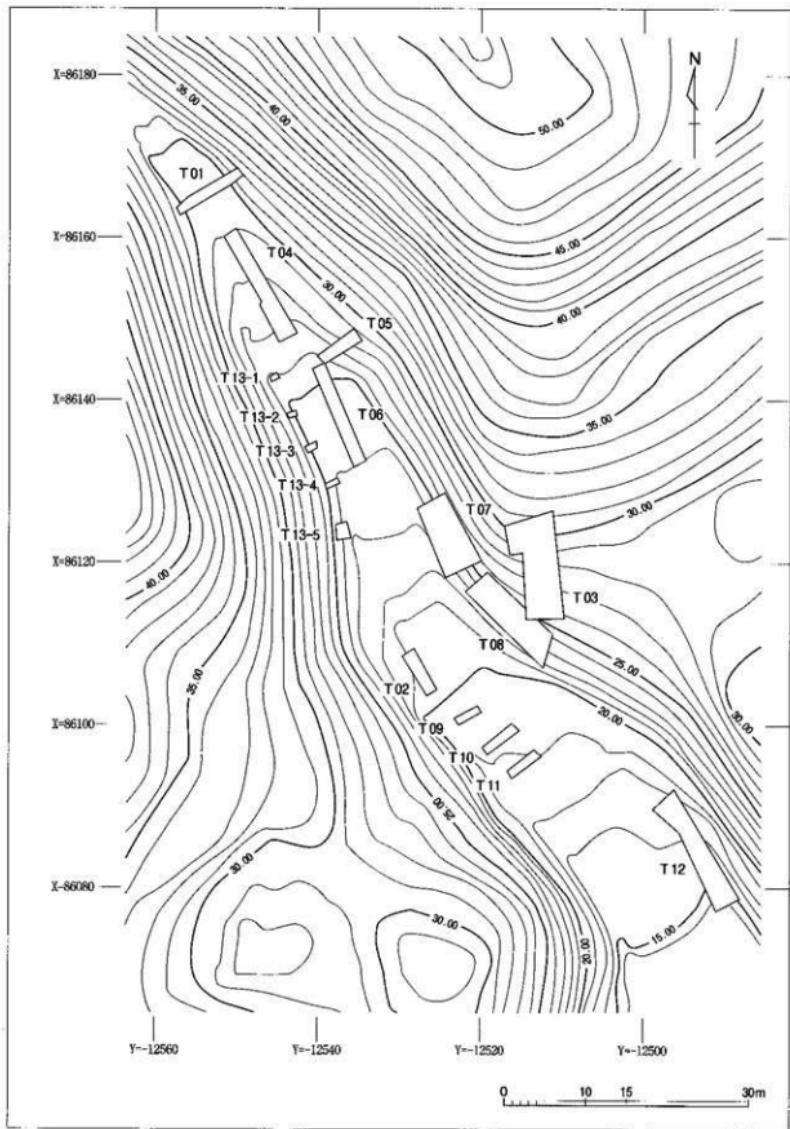
1段目は、谷の出口部で標高14.0～14.7m台である。3軒の民家が隣接し、宅地化されている。元々は、耕作地だったと考えられる。

2段目は、耕作のためと思われる開墾が見られ、雑壇状に平坦面が見られる。

3段目は、比高差10mを計る緩やかな丘陵斜面である。谷奥は徐々に幅を狭め、平坦部がなくなり、V字になる。東側斜面には地滑り跡である馬蹄形の凹みが見られ、崩落土が下部に堆積する。西側斜面は現況では、崩落は見られない。



第15図 山園町遺跡調査地区位置図 (1/5,000)



第16図 山岡町遺跡試掘坑配置図 (1/600)

2. 調査方法

調査は、付近の地形や過去の調査から、（A）横穴の有無を確認すること。（B）尾根からの転落遺物に留意すること。（C）平坦地での遺構の有無を確認することの3点に留意して調査計画をたてた。

横穴の調査については、調査地の斜面立ち上がり部について、詳細に表面観察を実施した。その上で、横穴の可能性がある位置について、試掘坑を設定し、機械を併用し人力で掘削を行った。

転落遺物については、谷の堆積土中に試掘坑を設定し、包含層の有無の確認と、堆積の状態を記録した。また、院内A支群が位置する尾根上には、切り通し状の鞍部が地図上でも確認でき、この鞍部に隣接する箇所に若干の傾斜変換地形が認められるために、尾根上に試掘坑を設定した。

平坦地の調査は、2段目に確認できる段状の平坦面に、試掘坑を設定し、遺構の有無を確認した。試掘坑の設定は、現地の現況地形の観察・精査後に行った。試掘坑を設定した後、順次掘削を行った。

3. 各試掘坑の状況

試掘坑01（T01）

谷の奥部の標高29mを計る地点である。この部位で、包含層の有無を確認することを目的とし、谷を横切って東西方向に約9mの長さで試掘坑を設定した。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑02（T02）

第2段の最上部である。人為的な平坦面を呈する。これより上部で、人為的な平坦面は見られない。標高21mを計る。包含層の有無を確認することを目的とし、平坦面の形状に合わせて、南北方向に約6mを掘削した。層序は、表土・耕作土が薄く、下層は、崩落土の堆積と思われる黄褐色土層を検出した。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

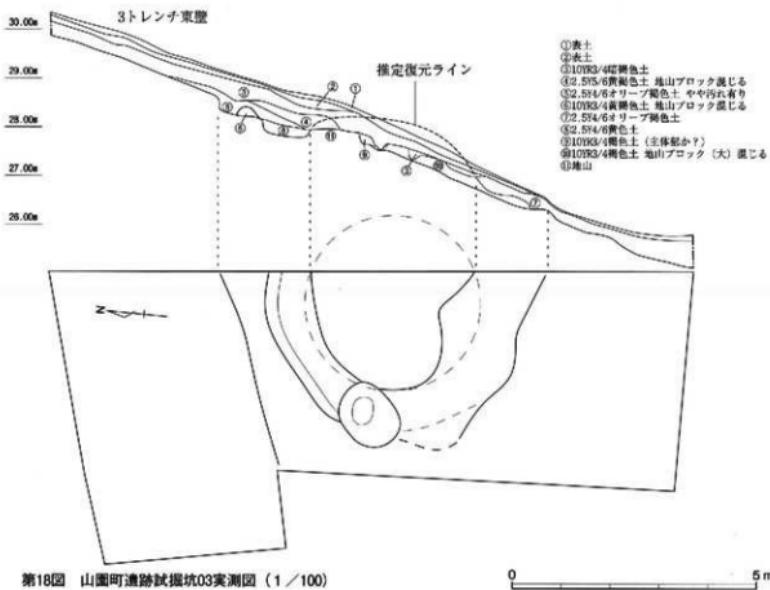
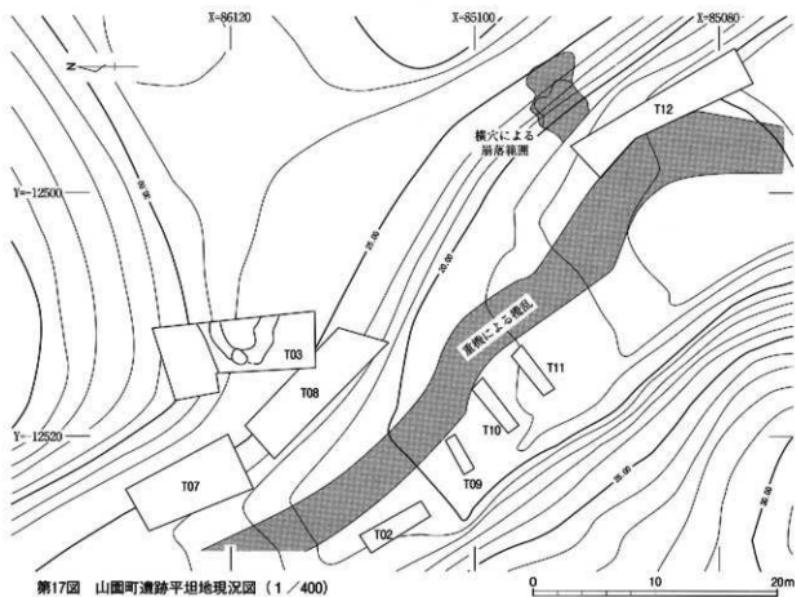
試掘坑03（T03）

尾根部に設定した試掘坑である。標高24~31m地点を南北方向に約13mを計る。地表面の観察で、わずかな地形変換面を認めたため、人為的な地形の変容の有無を確認するために試掘坑を設定した。地山の整形が、認められ、削り込みとその排土による平坦面、あるいは塚状遺構の築造が認められる。盛り土は、直径約3mで、基底部の痕跡を残して流失している。試掘坑の壁の観察では、地山への削り込みは、30cm程を計り、排土を下方に積み上げて、平坦面を作る。さらに、30cmの深さの溝を掘り、排土を溝の内外に積み上げたと思われる。下方では、溝は認められない。地山直上に、地山のブロックを主体とする層がマウンドの痕跡として残る。遺物は検出していない。

また試掘坑03の東、調査対象区外に、検出した塚状遺構と同様のものを確認した。

試掘坑04（T04）

第3段の中間に位置し、標高27~29mを計る。包含層の有無の確認と土砂の堆積状況を確認するため、南北方向に約14mの試掘坑を設定した。深さ約70~150cmまでを確認した。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。



試掘坑05（T05）

第3段の中間に位置する標高26～29m地点の東側斜面は、馬蹄形のえぐれがあり、下部には土砂の堆積が認められる。この堆積が自然地形であることや、包含層の有無を確認するために、東西方向に約5mの試掘坑を設定した。深さ約90～140cmまでの堆積状況を観察した。堆積土は表土が約10～20cmで、旧表土と思われる層が繰り返し堆積している。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑06（T06）

第3段の最下である。包含層の有無と谷の堆積状況を確認するため、標高24～26m地点を南北方向に約13m、深さ約80～140cmまでの堆積状況を観察した。堆積土は、にぶい橙色土の下層に鉄分の強い橙色土・粘性の強い赤灰色土等、水による自然堆積の様相を示していた。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑07（T07）

第3段の最下であり、かつ、谷が開ける直前の東側斜面の基部である。横穴の有無を確認した。南北方向に約9m、幅約4～5mの試掘坑を設定した。掘削後に、人力で精査を行った。斜面の堆積土は薄く、直下に、黄褐色のもろい岩盤の地山を検出した。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑08（T08）

試掘坑07と同じ目的で、南側に隣接する個所に南北に約8m、幅約3mの試掘坑を設定した。掘削は重機を用いて、精査は人力で行った。試掘坑07と同じく、直下に黄褐色の岩盤の地山を検出した。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑09（T09）

柵田を呈する2段上方である。包含層の有無を確認した。東西に長さ2m、幅1mの試掘坑を設定した。前述の試掘坑02とは、既設の排水溝を挟んで、下方の平坦面に位置する。耕作土の下方には、試掘坑02で確認している黄褐色土を検出した。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑10（T10）

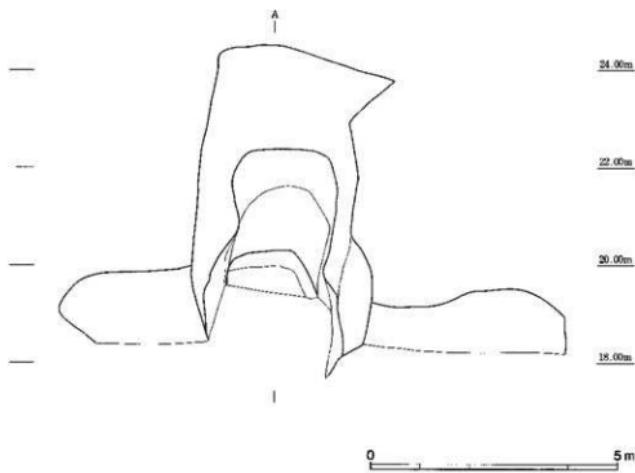
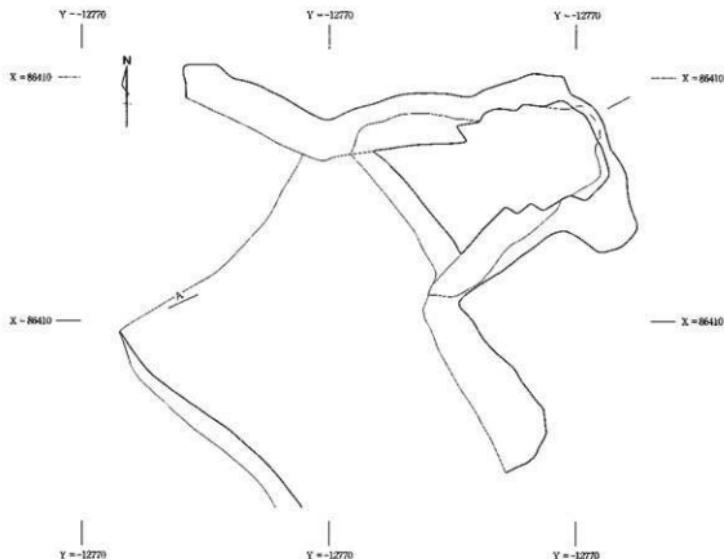
試掘坑09の1段下部に位置し、標高19mを計る。人為的な平坦面である。包含層の有無を確認した。重機で、東西方向に約5m・深さ30cmの掘削を行い、耕作土の堆積状況の確認を行った。耕作土は10cmを計る。試掘坑02・08・09に見られる黄褐色土層は、ここでは確認できなかった。下層は、谷の内部に見られる水流による堆積と見られ、細砂・疊混じりの層に移行する。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑11（T11）

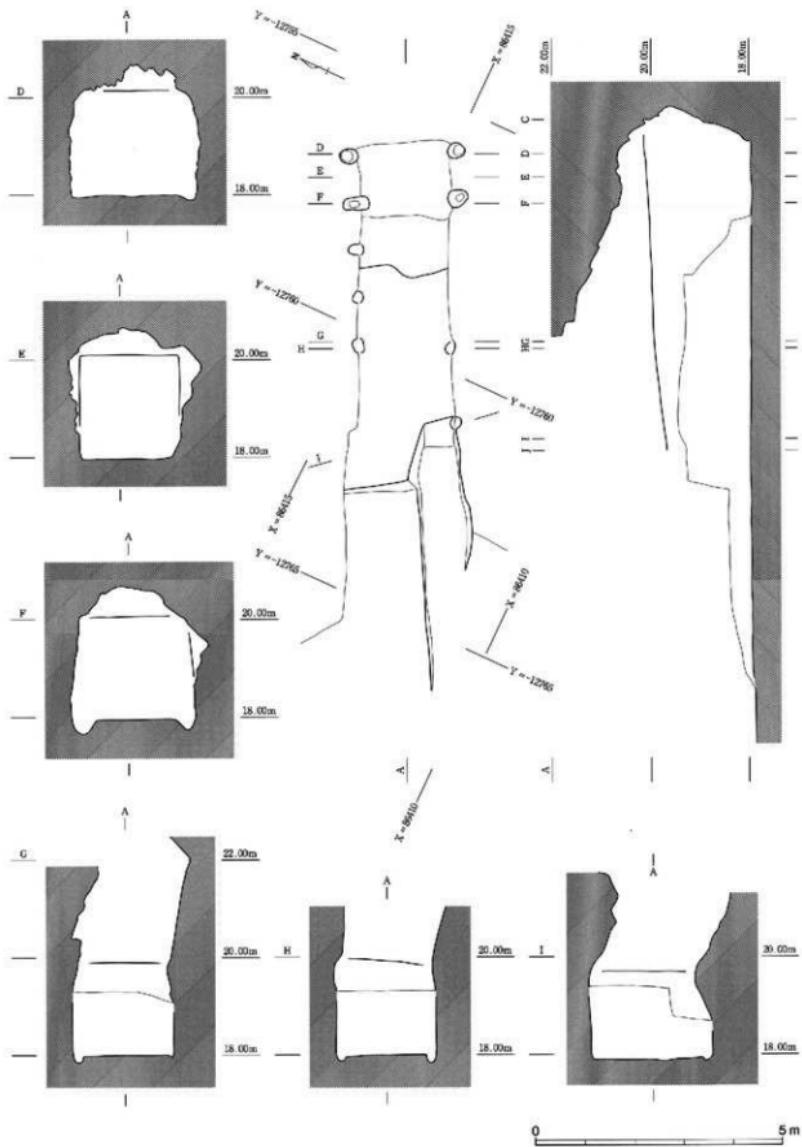
試掘坑10の下段に位置する。包含層の有無を確認した。東西方向に約4m、深さ約80cmまでの状況を確認した。表土直下に、砂層・疊混じり層等の、谷の内部の堆積が見られ、黄褐色土層は検出できなかった。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑12（T12）

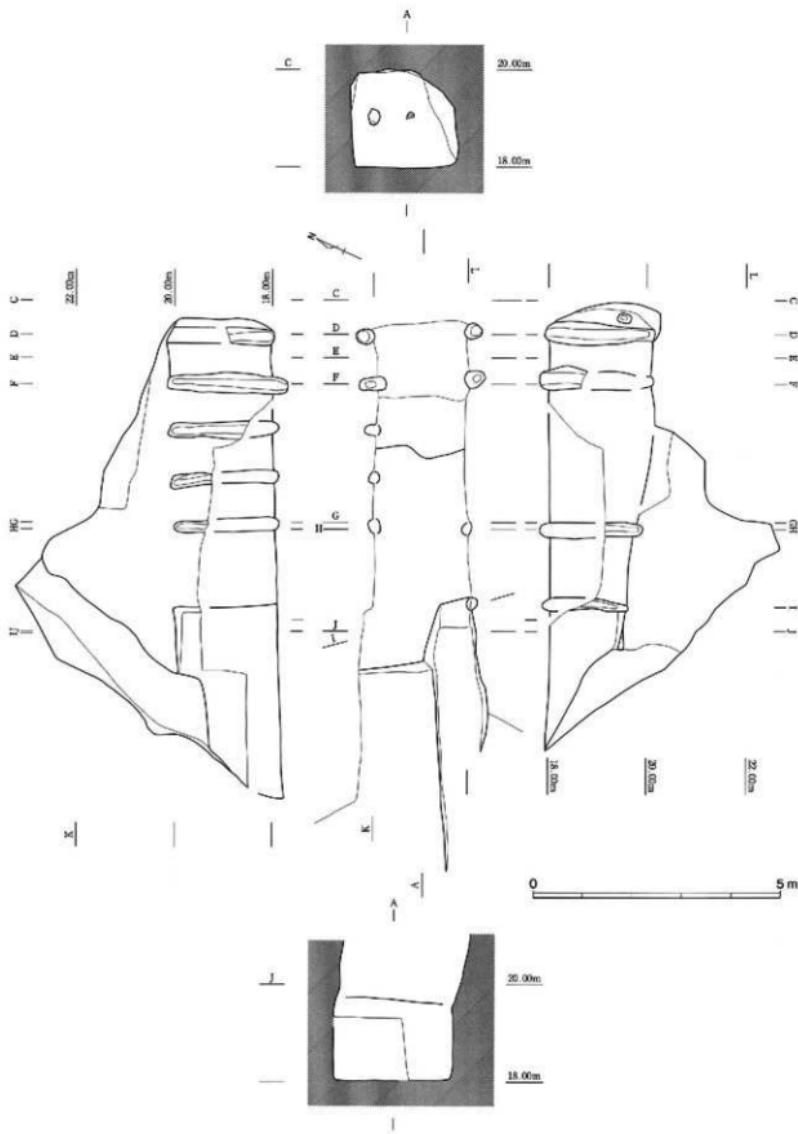
院内古墳群A支群の直下の丘陵斜面掘部で、新たな横穴（後に「防空壕」とした）を発見した。この横穴の全部に位置する平坦面は、標高17mを計り、第2段で最も広い面積を有する。横穴の関連施設・遺物の採取を目的に、南北に約15m、幅約2～3mの試掘坑を設定した。掘削は主に人力を用いて行った。調査の結果、横穴の開口部から、谷の中心部に至る線の下部に、横穴を掘削したときの排土と思われる、地山のブロックが堆積している。この堆積は平面的に見ると、谷の第2段で、東から中央まで覆い、横穴の前面部に相当する平坦面と、ほぼ同じ高さにしてあることから、整地層として捉えることができる。この整地層は、ブロック間に隙間が残る等、新しい堆積の様相を示す。包含層・遺構・遺物は確認できなかった。



第19図 山園町遺跡防空壕確認状態実測図 (1/100)



第20図 山面可進路防空壕断面図等実測図 (1/100)



第21図 山田町遺跡防空壕側面図等実測図 (1/100)

試掘坑13（T13-1～5）

第3段の西側尾根・斜面据部において、人為的な改変の痕跡を、地形の観察では、明確に認められなかつた。試掘坑04及び06右斜面の立ち上がり部に、試掘坑を設定した。安全上、全面的な掘削は避け、5箇所のグリッドを設定し、面的な調査とした。掘削は人力で地山の検出を行つた。

その他の調査地区

谷の第1段から第2段の高差は約1mを計る。この部位は伐採時に重機を進入させるため、大きく開削している。この開削部で、第1段から第2段の下方部について、断面を観察することができた。表土直下には、粘質土の水平な堆積が見られ、その下層に、黒褐色の堆積が見られる。過去の調査では、この黒褐色土に遺構面が確認されている。ここでも黒褐色土直上から株洲の擂鉢片が出土したことから、遺構面と判断した。

4. 防空壕

今回検出した遺構の規模は、防空壕1箇所である。長軸約9.0m、幅約1.8m、高さ約2.1mを計る。仕切り溝が、両側面で12本検出した。出土遺物は、開口部の外側で五輪塔、土師器、株洲である。内部には仕切り溝があり崩落防止のために木組みをしていたと考えられる。当初は中世の地下式塙や矢倉状遺構を想定していたが、木組み工法や仕切り溝の工具痕から築造は、近世以降の時代であると想定される。

検出された防空壕は、穴内部からの出土遺物がなく遺構の性格を断定しにくい。食料保存の室などの可能性も考えられる。地元の方の証言も勘案して戦時中の防空壕と判断した。

今回の試掘調査によって、当初考えていた古墳時代～中世の横穴ではなかつたものの、安定期した岩盤のある箇所を選んで築造されている。

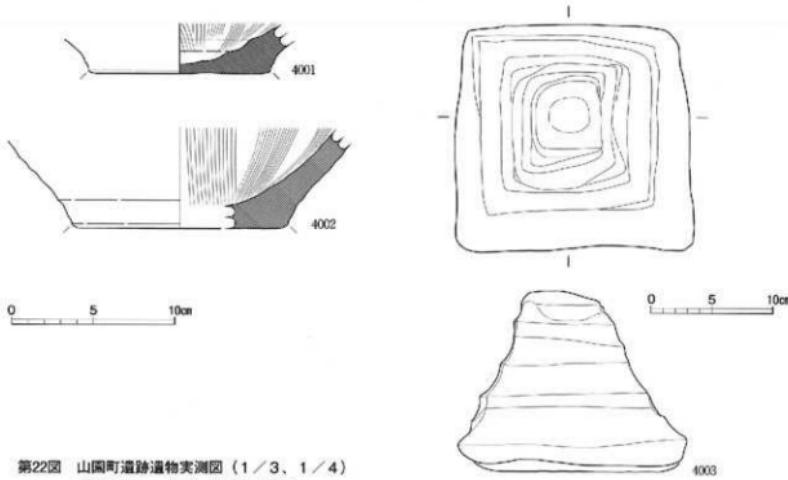
5. 遺物

土器類

株洲 第22図-4001・4002。擂鉢の底部である。4001はエロシ目幅は3.0cmで、条数は13条である。4002はオロシ目幅は1.0cmで、条数は6条である。

石製品

五輪塔 第22図-4003。4003は火輪である。凝灰岩製である。



第22図 山園町遺跡遺物実測図（1／3、1／4）
珠洲：4001・4002、五輪塔：4003

6. 小結

今回の調査は、山園町遺跡の中央部から北側に延びる谷部において実施した。付近で実施した調査や、周辺の地形から、横穴や平坦面等の遺構の存在が想定された。また、工事範囲が一部丘陵上部にかかり、院内古墳群との関連する遺構、遺物の有無について注意する必要があった。

現地調査の結果、谷部東側尾根上において、古墳と思われる塚状の遺構を2基検出した。確認した範囲では、遺物が出土しなかったため、遺構の時期は不明である。隣接する院内古墳群との関連が想定される。

また、試掘坑12において横穴と思われる開口部を確認した。確認調査の結果、近代の防空壕と思われる。平成12年の調査では、同じ標高に複数の横穴を検出している。開口部周辺から宝篋印塔や珠洲が出土していることや、周囲の状況から判断して、かつて存在した横穴を改変して転用した可能性がある。

山園町遺跡は、谷部の奥まで中世段階に大規模な開発を行っている。さらに丘陵上部では、院内古墳群等がある。今回の調査では、これまでの調査で得られた成果を裏付ける知見があった。

V 総 括

今回、報告したのは二上谷内遺跡で行われた試掘調査・本調査である。また、近年、二上山周辺で実施した調査も併せて概要を報告した。今回、報告した調査は、いずれも二上山周辺の丘陵、台地の斜面地にあたる。二上山から西山丘陵一帯においては、丘陵上に古墳群や横穴墓が多く分布する。

二上山には古くから二上神の信仰があり、「万葉集」に掲載されている大伴家持が詠んだ「二上山の賦」からも何える。二上神は貞觀3（859）年には正三位となり越中国で最高の神階となった。中世～近世になると、二上神の信仰は神仏習合により真言宗二上山養老寺を中心とした二上山権現を祀るものとなり、越中國一円に信仰圏を持つようになった。しかし、明治時代の神仏分離により二上山権現を廃絶し、射水神社を復活させ、その祭神として二上神がなった。射水神社は、明治7（1874）年に二上から高岡城址内へ遷座している。また、二上射水神社には高岡御車山祭の椎形とされる築山行事が行われているように、二上神の信仰は現代まで受け継がれている。

二上山の東麓にある伏木台地には越中國府が設置され、また中世～近世にかけては、二上山麓の城山に守山城が築かれ一時的ではあるものの守護所となる等、二上山周辺は政治・文化の中心地であった。また、麓には小矢部川や古代北陸道があり、水運・陸運による交通の要所でもあった。

平成16年度、二上谷内遺跡の調査

試掘調査は、二上谷内遺跡を含め、二上谷内地区の谷部一帯において実施した。本調査は、調査地区北西部において実施した。遺構は、調査地区北西側において、道路状遺構や段を成している開削地、方形状遺構等を検出した。中でも、斜面据部にて、湧水地と水溜遺構を確認した。湧水地には、中世土師器が供獻された状態で出土した。周辺では等間隔に並ぶ、小穴3基があり、何らかの建物が存在した可能性がある。これらの遺構は祭祀に関連する性格を持つものとして、今回は祠状遺構とした。

また、試掘調査段階で検出した平坦面は、道路状遺構となる可能性があることを確認した。幅は約2mで、長さ約9.5mを計る。南東から北西方向へ丘陵斜面沿いに走るものとして想定した。切り合い関係から道状遺構が古く、祠状遺構は、この遺構を改変して築造されたと思われる。遺物は、試掘調査対象地のほぼ全域から、珠洲等の中世を主体として出土した。調査地区中央部から北西側にかけて集中している。遺物の時期は13～14世紀のものと思われる。この調査により、二上谷内遺跡の範囲は、二上谷内地区一帯に拡がることを確認した。当地区には、二上射水神社があり、古代からの二上山信仰に関連する地域の一つとして注目される。

平成17年度、山園町遺跡の調査

山園町遺跡は、二上谷内遺跡東側に位置する。これまでの調査により、斜面地を含む谷部一帯が遺跡であることを確認している。平成17年度に試掘調査及び測量調査を実施した。調査地区は、南東から北東に伸びる谷地形が、3つの段に分かれている。このうちの南東側、谷部平地側に面する箇所は、人為的に築造された平坦面であることを確認した。出土遺物から中世のものと判断した。南西側方向の丘陵斜面では横穴5基を検出しており、中世の遺構が谷部奥まで拡がることを確認した。また、院内社のある丘陵上には、古墳乃至塚状遺構と思われる遺構を検出した。直徑約3m、周囲に幅0.8mの溝が廻る。隣接する院内古墳群の一部と思われるが、遺物が出土せず、時期や性格は明確でない。

なお、横穴と思われる開口部について、測量調査を実施したところ、近代の防空壕であると判断した。

報告書抄録

ふりがな	ふたがみやちいせきちょうさがいほう						
著名	二上谷内遺跡調査概報						
副書名	平成16年度、谷内（1）地区急傾斜地崩壊対策事業に伴う調査						
卷次							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報						
シリーズ番号	第65冊						
編著者名	山口辰一、荒井隆、中井英策、山中昌樹、岡田義樹、田所人志						
編集機関	高岡市教育委員会						
所在地	〒933-0057 富山県高岡市広小路7番50号						
発行年月日	西暦 2007年3月15日						
ふりがな 所収遺跡	所在地	コ ー ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
二上谷内遺跡 急傾斜地地区	富山県高岡市 二上谷内	市町村 遺跡番号	° ° °	° ° °			
	016202 202098		36° 46° 34°	137° 01° 10°	040816 041227	75m ²	急傾斜地崩壊 対策工事
山園町遺跡 沙魚谷砂防改良地区	富山県高岡市 山園町	016202 202012	36° 46° 34°	137° 01° 34°	051102 060328	301m ²	砂防改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
二上谷内遺跡 急傾斜地地区	散布地	中世	祠状遺構 道路状遺構	珠洲 土師器	祭祀に関連する祠状 遺構を検出		
山園町遺跡 沙魚谷砂防改良地区	集落跡	古墳時代 中世	平坦面	珠洲 五輪塔			

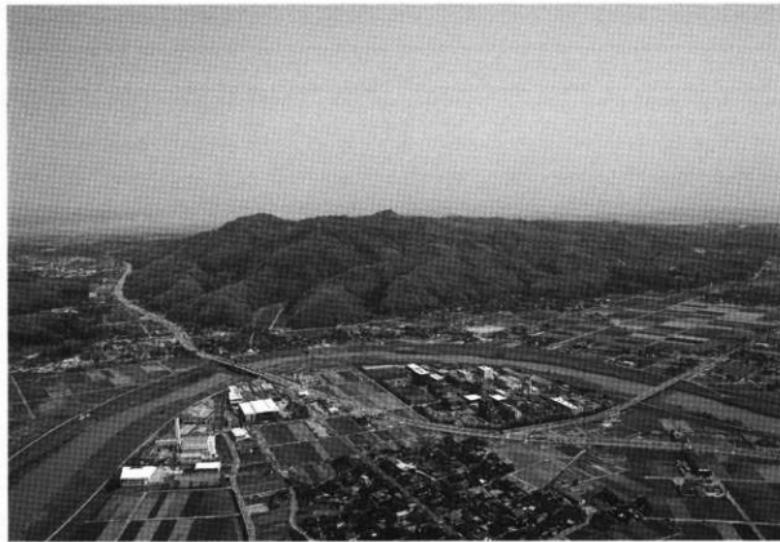
図 版

図版目次

- 図版01 遺跡写真 二上谷内遺跡 1. 遺跡遠景（南）
2. 遺跡遠景（南西）
- 図版02 遺構写真 二上谷内遺跡 1. 試掘調査地区、調査開始時の状態（南東）
2. 試掘調査地区、調査開始時の状態（南東）
- 図版03 遺構写真 二上谷内遺跡 1. 試掘調査地区、試掘坑03側状遺構（西）
2. 試掘調査地区、試掘坑03側状遺構（東）
- 図版04 遺構写真 二上谷内遺跡 1. 本調査地区、調査地区全景（南南西）
2. 本調査地区、調査地区全景（南東）
- 図版05 遺構写真 二上谷内遺跡 1. 本調査地区、罐状・水溜遺構全景（北西）
2. 本調査地区、水溜遺構近景（北西）
- 図版06 遺構写真 山園町遺跡 1. 調査地区全景（北西）
2. 調査地区全景（南東）
- 図版07 遺構写真 山園町遺跡 1. 防空壕検出状態（南）
2. 防空壕検出状態（南西）
- 図版08 遺構写真 矢田上野古墳群 1. 調査地区遠景（東）
2. 調査地区全景（東）
- 図版09 遺物写真 各遺跡 1. 矢田上野古墳群、出土遺物
2. 二上谷内遺跡試掘調査地区、出土遺物
- 図版10 遺物写真 各遺跡 1. 二上谷内遺跡本調査地区、出土遺物
2. 山園町遺跡、出土遺物



1. 遺跡遠景（南）



2. 遺跡遠景（南西）

図版〇一
遺構写真
一上谷内遺跡



1. 試掘調査地区、調査開始時の状態（南東）



2. 試掘調査地区、調査開始時の状態（南東）



1. 試掘調査地区、試掘坑03洞状遺構（西）



2. 試掘調査地区、試掘坑03洞状遺構（東）



1. 本調査地区、調査地区全景（南南西）



2. 本調査地区、調査地区全景（南東）



1. 本調查地区、剝状・水溜造構全景（北西）



2. 本調査地区、水溜造構近景（北西）



1. 調査地区全景（北西）



2. 調査地区全景（南東）



1. 防空壕検出状態（南）



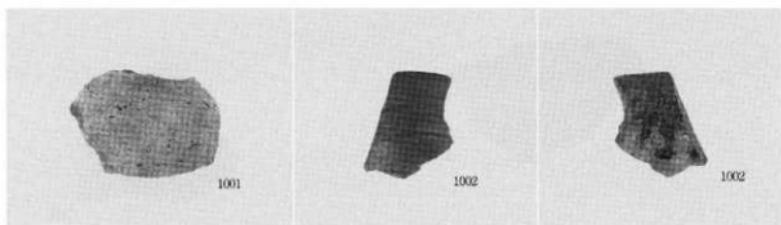
2. 防空壕検出状態（南西）



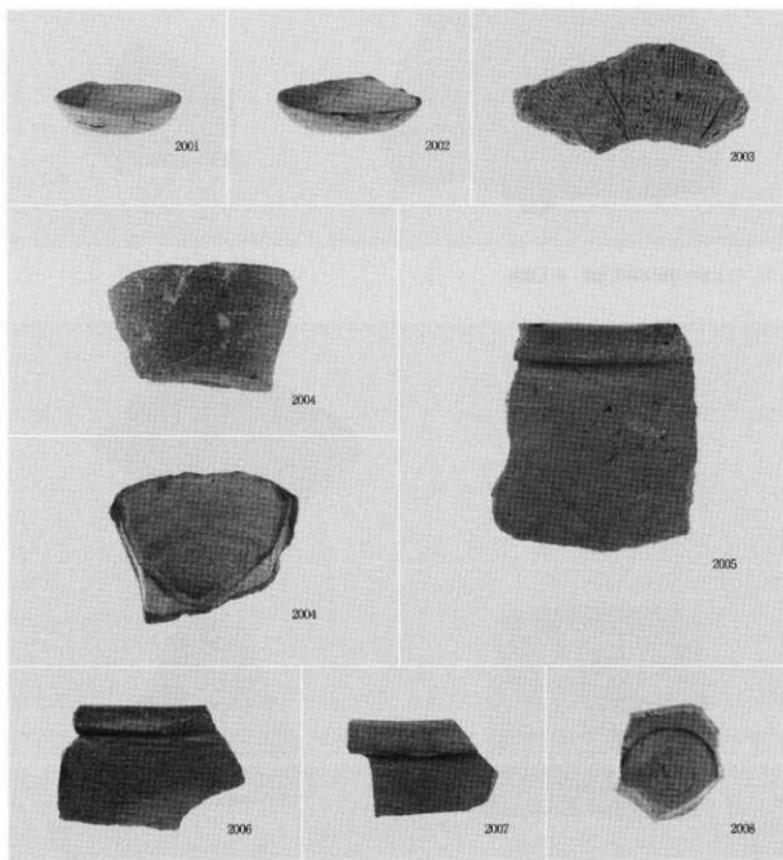
1. 調査地区遠景（東）



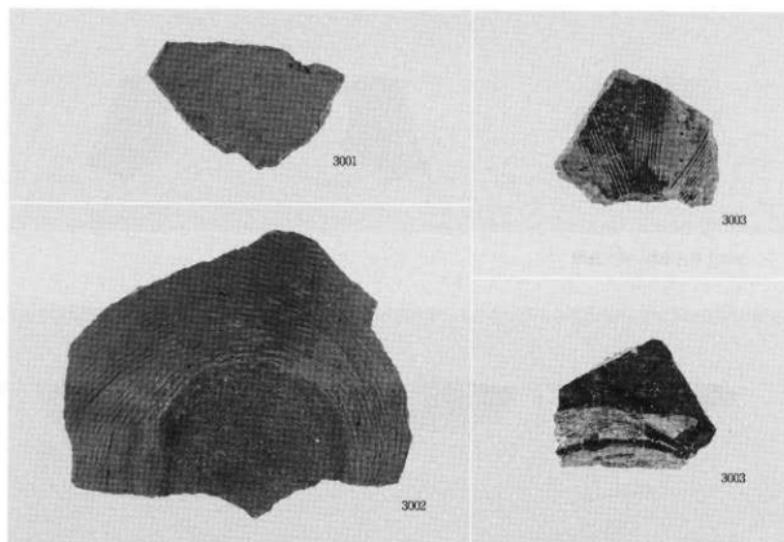
2. 調査地区全景（東）



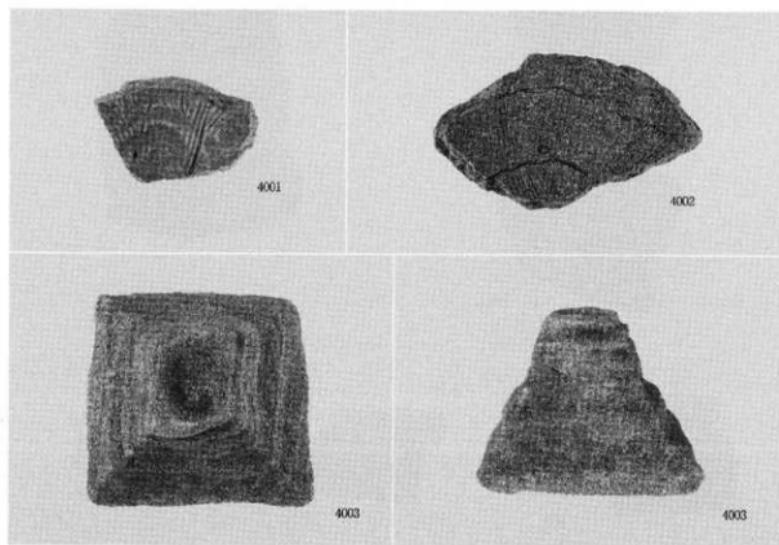
1. 矢田上野古墳群、出土遺物



2. 二上谷内遺跡試掘調査地区、出土遺物



1. 二上谷内遺跡本調査地区、出土遺物



2. 山園町遺跡、出土遺物

高岡市埋蔵文化財調査概報第65号

二上谷内遺跡調査概報

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

2007年3月15日

印刷所 平田印刷株式会社

富山県高岡市野村1485番地
